茨城県教育財団文化財調査報告第425集

東大橋逆井遺跡

一般国道６号千代田石岡バイパス
（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）
事業地内埋蔵文化財調査報告書９

平 成 30 年 3 月

国土交通省関東地方整備局
常 陸 河 川 国 道 事 務 所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第425集

東大橋逆井遺跡
（ひがしおおはしさかい）

一般国道６号千代田石岡バイパス
（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）
事業地内埋蔵文化財調査報告書９

平成30年３月

国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて，埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和52年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所による一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設事業に伴って実施した，茨城県石岡市東大橋逆井遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，縄文時代早期及び前期の人々が生活した痕跡が確認でき，台地縁辺部における土地利用の一端が明らかになりました。これらの成果は，当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で，欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が，歴史研究の学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上のための資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，石岡市教育委員会をはじめ，御指導，御協力をいただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

平成30年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長　野　口　　通

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成27年度に発掘調査を実施した，茨城県石岡市大字東大橋字逆井2,848の9番地ほかに所在する東大橋逆井遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成27年 7 月29日～10月 8 日

整理　平成30年 2 月 1 日～ 3 月31日

3　発掘調査は，調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　寺内　久永

次 席 調 査 員　　舟橋　理

調　　査　　員　　小松﨑百恵

調　　査　　員　　緑川　正實

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修のもと，調査員皆川貴之が担当した。

5　当遺跡で採取した第1号遺物包含層土壌の自然科学分析については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X = + 21,000 m，Y = + 42,880 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へ a，b，c…j，西から東へ 1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　FP －炉跡　HG －遺物包含層　SD －溝跡　SK －土坑

遺物　　DP －土製品　Q －石器・石製品

土層　　K －撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□ 焼土　　■ 炉・火床面・繊維土器

● 土器

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

欠番　SD 4・5

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　調査の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 11
　　(1) 炉　跡 …… 11
　　(2) 土　坑 …… 12
　　(3) 遺物包含層 …… 18
　　２　その他の遺構と遺物 …… 19
　　(1) 土　坑 …… 19
　　(2) 溝　跡 …… 19
　　(3) 遺構外出土遺物 …… 20
　第４節　まとめ …… 21
付　章 …… 22
写真図版 …… PL 1～PL 4
抄　録

東大橋逆井遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

東大橋逆井遺跡は，石岡市の東部に位置し，園部川右岸の標高22～24ｍの台地縁辺部に立地しています。一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，茨城県教育財団が，平成27年度に発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査で，縄文時代の炉跡４基，土坑20基，遺物包含層１か所などを確認しました。主な出土遺物は，縄文土器（深鉢・尖底深鉢），陶器（鉢），土製品（耳飾り），石器（敲石・凹石）などです。

調査終了状況（調査区北部）

調査終了状況（調査区中央部）

斜面上部から見た遺物包含層（北から）

縄文時代早期の尖底深鉢

縄文時代前期の土器片

調査の成果

遺跡の中心となる時代は縄文時代前期前半（約 6,000 年前）で，この他に早期や，前期末から中期初頭にかけての土器片が出土しています。確認した遺構は炉跡や土坑で，建物跡は確認できませんでした。当遺跡は，舌状台地（ぜつじょうだいち）の縁辺部に立地し，集落を営むには不向きな場所であったことが伺えます。

斜面部で確認した遺物包含層からは，早期（約 9,000 ～ 6,000 年前）の土器片が出土し，調査区内からは中期初頭の土器片が出土していることから，当地では縄文時代早期から中期初頭にかけて断続的に土地利用が行われていたことが明らかになりました。

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

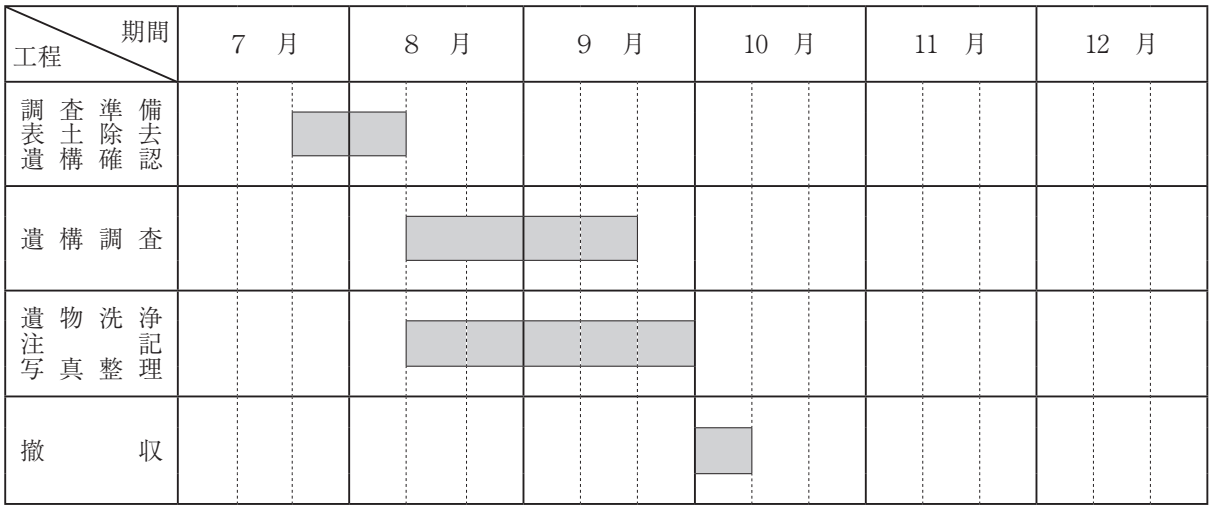
平成 10 年 11 月 12 日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに一般国道６号千代田石岡バイパス建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成 11 年２月８日～３月３日に現地踏査を，平成 26 年３月 14 日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成 26 年３月 28 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに，事業地内に東大橋逆井遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成 27 年２月 12 日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第 94 条に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成 27 年２月 23 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに，現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。平成 27 年３月９日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに一般国道６号千代田石岡バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成 27 年３月 12 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに，東大橋逆井遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，合わせて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査業務について委託を受け，東田中遺跡と合わせ，平成 27 年７月１日から 12 月 31 日まで発掘調査を実施した。

第２節　調　査　経　過

東大橋逆井遺跡の調査は，平成 27 年７月 29 日から 10 月８日までの約２か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

東大橋逆井遺跡は，茨城県石岡市大字東大橋字逆井2,848の９番地ほかに所在している。

当遺跡が所在する石岡市は，茨城県のほぼ中央，霞ケ浦の北西に位置する。石岡市付近の台地の特徴として，標高20～30ｍの範囲が大部分を占め平坦な場所が多いことがあげられる。石岡市域には，主要河川である恋瀬川，園部川が北西の筑波山系から南東方向に流れ，霞ケ浦に注いでいる。恋瀬川とその北側を流れる山王川の間は現在の石岡市街地が広がる中心地となっている。

地質は，未固結の砂を主とする石崎層を基盤として，強内湾性，浅海性の貝化石を産する見和層，その上に茨城粘土層（常総粘土層），関東ローム層が連続して堆積し，最上部は黒土層となっている[1)]。

当遺跡は，園部川右岸の樹枝状に谷津が入り込む標高約22～24ｍの台地縁辺部に位置している。台地は，西側の基部から幅約200mで北方へ約500m張り出した舌状台地である。今回の調査区はその東縁部にあたる。霞ケ浦の高浜入りまで南に約３㎞である。調査前の現況は山林であった。

第2節　歴　史　的　環　境

当遺跡の所在する石岡市をはじめ，霞ケ浦沿岸地域には各時代の遺跡が多数分布している。ここでは，当遺跡周辺の主な遺跡を中心として，時代ごとに概観する。

旧石器時代は，当遺跡から1.5㎞ほど南に位置する大作台遺跡[2)]〈50〉で石器集中地点が確認され，石錐，石核，剥片などが出土している。また，小美玉市館山遺跡[3)]では，ナイフ形石器や石核などが出土し，館山遺跡に隣接する権現平古墳群[4)]や権現山古墳[5)]では，槍先形尖頭器，ナイフ形石器，掻器，削器などが出土している。

縄文時代の遺跡は，草創期から晩期にかけて各時期のものが確認されており，霞ケ浦へと流入する河川沿いや，霞ケ浦沿岸などの水辺に遺跡が多く分布している。当遺跡周辺では，早期後半の炉穴をはじめ，前期から後期にかけての竪穴建物跡16棟などが確認された槙堀遺跡[6)]〈60〉の他，早期・前期の茅山式・関山式期の遺構が確認された大谷津遺跡[7)]〈71〉，前期の花積下層式期の竪穴建物跡５棟が確認された田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）[8)]，早期の茅山式期の竪穴建物跡３棟，前期の黒浜式期の竪穴建物跡７棟，浮島式・諸磯式期の竪穴建物跡32棟が確認された外山遺跡〈68〉，浮島式・諸磯式期の竪穴建物跡が15棟確認された新池台遺跡[9)]〈75〉，前期から後期までの竪穴建物跡が確認された中津川遺跡[10)]〈58〉など多くの集落遺跡が確認されており，その分布は恋瀬川・山王川の下流域に集中している。中期以降では，阿玉台Ⅳ式期から加曾利ＥⅠ式期にかけての遺構が確認された東田中遺跡[11)]〈65〉や，80,000㎡に及び遺物が分布している東大橋原遺跡[12)]〈２〉など大規模な遺跡がある。

弥生時代の遺跡数は減少している。周辺では，新池台遺跡で中期末葉の集落が確認されているほか，ぜんぶ塚古墳群[13)]〈48〉で良好な資料が出土している。後期の遺跡は，恋瀬川と山王川の間に中津川遺跡と槙堀遺跡が所在する。中津川遺跡では後期中葉の竪穴建物跡７棟，槙堀遺跡では後期中葉から後葉にかけての竪穴建物跡８棟などが確認されている。また，山王川左岸の台地上に位置する外山遺跡では，後期後葉の竪穴建物跡が11棟確認され，上稲吉式，十王台式，二軒屋式土器が出土している。

古墳時代には，農耕技術をはじめ様々な文化や技術が発展していく。古墳時代前期で重要な位置づけがなされるものとして方形周溝墓がある。霞ケ浦沿岸に位置する権現平２号墳は，周溝の内法が一辺約 20 mと周辺地域では最大級の方形周溝墓である。その周溝からは畿内や東海地方の特徴を持つ土器が出土している。また，古墳時代中期には恋瀬川河口から 1.7 kmほどの位置に，全長 186 mの前方後円墳である舟塚山古墳が築造されている。県下最大の規模であることから，当地域が中心地として有力であったことは明らかである。

奈良・平安時代に入ると，律令制による国・郡などの行政区分が明確になっていく。石岡市域は，常陸国府が置かれた茨城郡に属していた。現石岡小学校敷地内で行われた常陸国衙跡[14]の継続的な調査の結果，国庁の構造も明らかになってきている。その周辺には，常陸国分寺跡，常陸国分尼寺跡，鹿の子遺跡，茨城郡衙跡，茨城廃寺跡が所在し，現在の市街地が文化の集合する中心的な地域となっていたことがうかがえる。

中世になり，武家が台頭し戦国乱世へ流れていく中，各地に城郭が築造されていく。鎌倉時代には，常陸国衙において政務を執っていた常陸大掾馬場資幹が外城の地に石岡城を築城した。南北朝時代には，大掾氏と小田氏の抗争が激化し，８代詮国は現石岡小学校の場所に城を移して府中城とした。これにより石岡城は府中城の出城としての性格を強めた。高野浜城跡〈63〉や三村城跡はこの時期に築城された出城である。中世末期に，再び大掾氏と小田氏の抗争が起き，やがて北から勢力を伸ばしてきた佐竹氏の支配下となった。

江戸に幕府が開かれた近世には，佐竹氏による支配以降，江戸や城下町に住む将軍や大名，あるいは旗本のような幕藩領主による支配を経て，元禄 13 年（1700 年），水戸藩主徳川頼房の五男頼隆が府中城の一画に陣屋を置いて統治した。古来から水運に恵まれていた石岡の地は各地からの物産集散地としての性格を強くし，特に酒・醤油などの醸造業を中心とした商人層が活躍した。また，陸路も発達し，江戸から水戸，さらには東北地方へ延びる浜街道が整備され，交通の要衝としても繁栄した。

※　文中の〈　〉内の番号は，第１図及び表１の番号と同じである。

註

１）石岡市史編さん委員会『石岡市史　下巻』石岡市　1985 年３月

２）小玉秀成・本田信之・川口武彦「大作台遺跡発掘調査報告」『玉里村立史料館報』Vol. 6　玉里村立史料館 2001 年３月

３）小玉秀成・本田信之『館山遺跡発掘調査報告書―旧石器・縄文・弥生時代編―』玉里村教育委員会　1999 年３月

４）伊東重敏「権現平古墳群」『玉里村埋蔵文化財調査報告』第１集　玉里村教育委員会　1994 年３月

５）小林三郎編『玉里村権現山古墳発掘調査報告書』玉里村教育委員会　2000 年３月

６）櫻井完介「槙堀遺跡　一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書７」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 370 集　2013 年３月

７）山本静男「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　兵崎遺跡　大谷津Ａ遺跡　対馬塚遺跡　大谷津Ｂ遺跡　大谷津Ｃ遺跡　外山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 13 集　1982 年３月

８）小野政美「田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 287 集　2008 年３月

９）和田雄次「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２　新池台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 17 集　1983 年３月

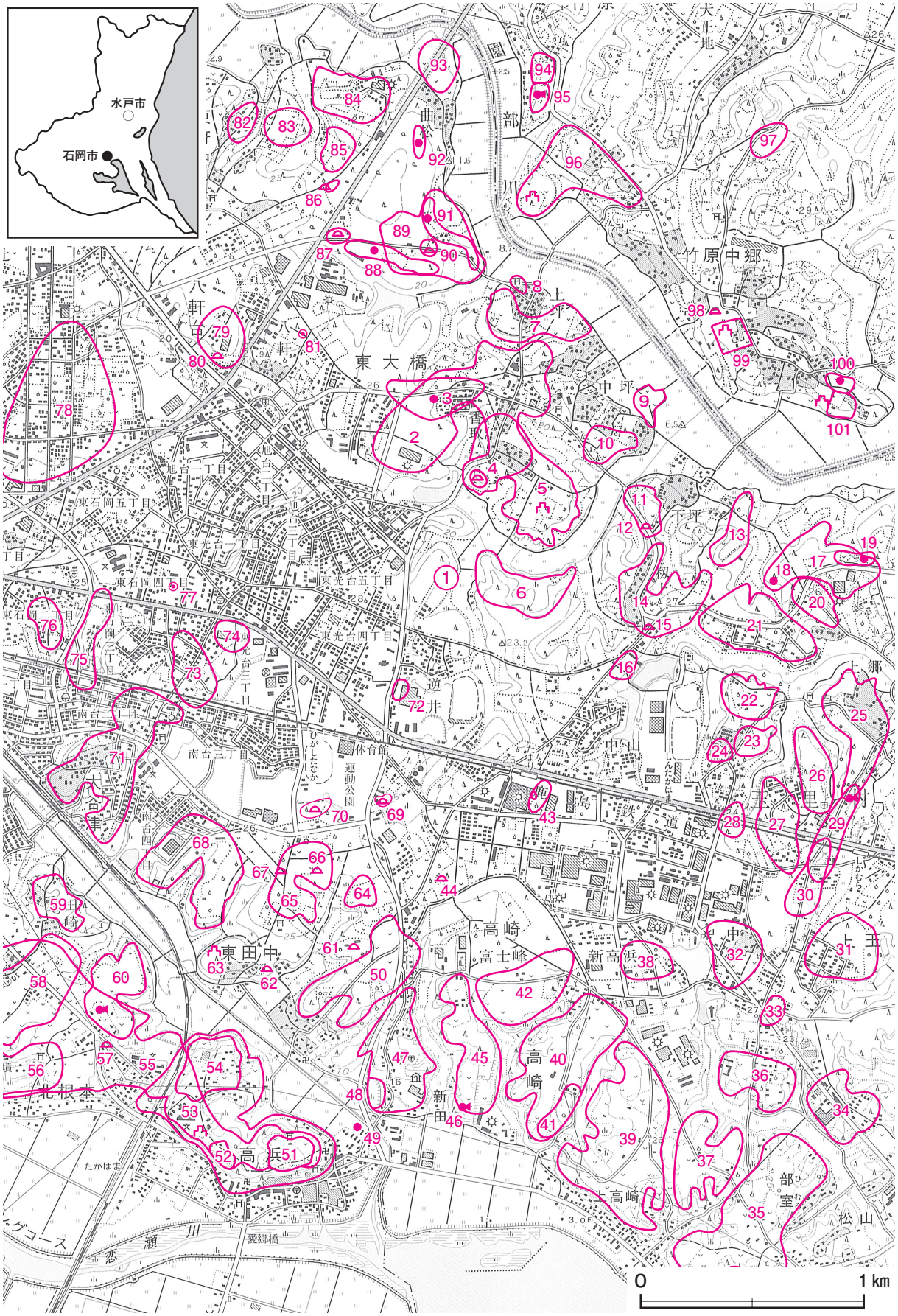
10）櫻井完介・近江屋成陽・大久保隆史「中津川遺跡　一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書５」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 338 集　2011 年３月

11）木村光輝・海老澤稔「東田中遺跡　中津川遺跡２　一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書８」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 407 集　2016 年３月

12）川崎純徳・海老澤稔ほか『東大橋原遺跡　第３次調査報告』石岡市教育委員会　1980 年３月

13）諸星政得・松本裕治・海老澤稔ほか『ぜんぶ塚（九十九塚）古墳発掘調査報告書』石岡市教育委員会　1982 年３月

14）箕輪健一『常陸国衙跡―国庁・曹司の調査―』石岡市教育委員会　2009 年３月

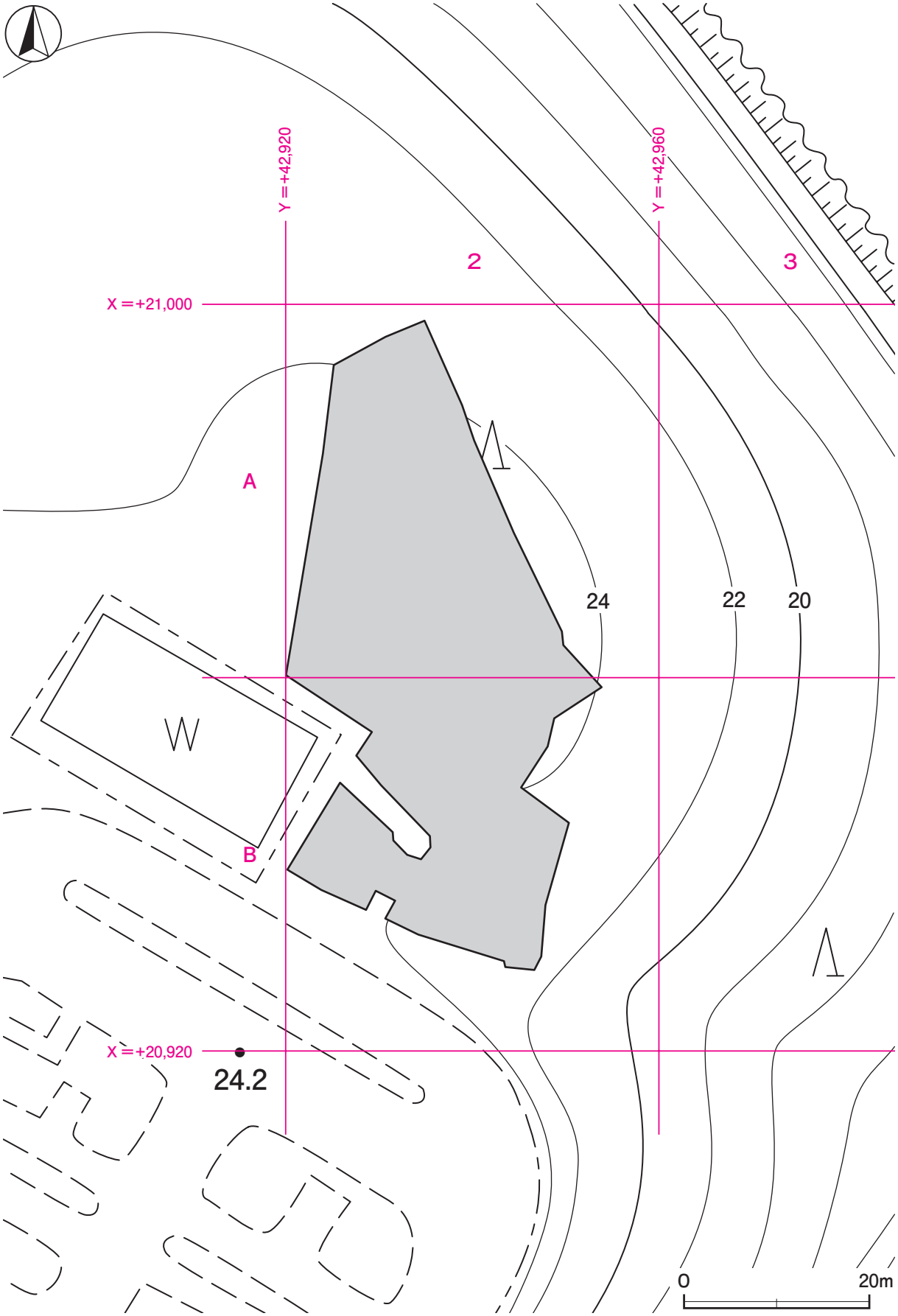


第１図　東大橋逆井遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「石岡」「常陸高浜」）

表１　東大橋逆井遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	東大橋逆井遺跡		○					
2	東大橋原遺跡		○		○	○	○	○
3	東大橋古墳群				○			
4	香取塚群							○
5	東大橋要害						○	
6	新山遺跡		○			○		
7	鍬下遺跡			○		○	○	○
8	上坪古墳群				○			
9	寺久保下遺跡					○		
10	中坪遺跡		○			○	○	○
11	白旗遺跡		○			○	○	○
12	下坪塚							○
13	下坪遺跡		○	○		○	○	
14	池下遺跡			○		○		
15	籾上塚							○
16	中山北遺跡		○		○	○		
17	蟹硲遺跡		○	○	○	○		
18	山ノ内古墳群				○			
19	七人塚古墳群				○			
20	高野遺跡		○			○		
21	根田上遺跡		○	○				
22	山ノ神遺跡		○	○	○	○		
23	原田向遺跡		○	○		○		
24	細田遺跡		○	○		○		
25	栗又四ヶ遺跡	○	○	○	○	○		
26	大山遺跡		○	○	○	○		
27	木ノ内遺跡		○					
28	観音峰遺跡		○					
29	木舟塚古墳群				○			
30	石橋遺跡		○		○	○		
31	田木谷遺跡		○	○	○	○	○	
32	中台北遺跡		○		○	○		
33	中台遺跡		○	○		○		
34	天神遺跡	○	○	○	○	○	○	○
35	部室貝塚		○	○	○	○	○	○
36	中台南遺跡		○	○	○	○		
37	弥蔵遺跡		○		○			○
38	新林遺跡		○					
39	出口遺跡	○	○	○	○	○	○	○
40	富士峯遺跡	○	○	○	○	○	○	○
41	富士峯古墳群				○			
42	中台遺跡		○				○	○
43	中山南遺跡				○	○		
44	前原塚							○
45	瓦ヶ台遺跡		○	○	○	○		○
46	龍王塚古墳				○			
47	新田遺跡		○	○	○	○		○
48	ぜんぶ塚古墳群				○			
49	下川古墳				○			
50	大作台遺跡	○	○		○	○		
51	上野遺跡				○	○	○	

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
52	権現遺跡		○		○	○		
53	高浜要害						○	
54	関戸遺跡		○		○	○		
55	舟塚山古墳群				○			
56	宮久保遺跡		○		○	○		○
57	道祖神塚							○
58	中津川遺跡		○	○	○	○	○	○
59	石岡田崎遺跡		○			○		
60	槙堀遺跡		○	○	○	○		
61	申塚						○	
62	山伏塚						○	
63	高野浜城跡						○	
64	柏葉遺跡		○					
65	東田中遺跡		○			○		
66	貝柄塚群						○	
67	木戸口塚							○
68	外山遺跡		○			○		
69	生板台遺跡	湮滅						
70	十三稲荷山塚群							○
71	大谷津遺跡		○			○	○	○
72	逆井遺跡		○					
73	六軒遺跡		○			○		
74	八幡塚群							○
75	新池台遺跡		○					
76	駒込遺跡		○					
77	小川道土塁						○	
78	大塚遺跡					○		○
79	上人塚遺跡		○			○		
80	八軒台塚							○
81	八軒台掩蔽壕	近代遺構						
82	出シ山遺跡		○					
83	東府中柏山遺跡		○				○	
84	柏山北遺跡		○			○		
85	柏山遺跡		○					
86	曲松台塚群							○
87	傾城塚群							○
88	傾城古墳群				○			
89	根古屋遺跡		○		○	○		○
90	根古屋塚群							○
91	根古屋古墳群				○			
92	曲松古墳群				○			
93	曲松遺跡		○		○	○		○
94	羽黒遺跡			○	○	○		
95	羽黒古墳群				○			
96	竹原城跡						○	
97	十三遺跡		○					
98	一字一石経塚							○
99	高原城跡						○	
100	平古墳群				○			
101	富士館跡						○	



第２図　東大橋逆井遺跡調査区設定図（石岡市都市計画図 2,500 分の１）

第３章　調　査　の　成　果

第１節　調　査　の　概　要

東大橋逆井遺跡は，石岡市の東部に位置し，園部川右岸の標高約 24 ｍの台地縁辺部に立地している。調査面積は 1,683㎡で，調査前の現況は山林である。

調査の結果，炉跡４基（縄文時代），土坑 31 基（縄文時代 20・時期不明 11），溝跡６条（時期不明），遺物包含層１か所（縄文時代）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に２箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢・尖底深鉢），陶器（鉢），土製品（耳飾り），石器（敲石・凹石）などである。

第２節　基　本　層　序

調査区の東部にテストピットを設定し，基本土層（第３図）の堆積状況の観察を行った。

第１層は，暗褐色の表土層で，層厚は 17 ～ 30㎝である。

第２層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 16 ～ 36㎝である。

第３層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く，層厚は 18 ～ 27㎝である。第２黒色土帯に比定される。

第４層は，ローム粒を含む灰褐色層である。粘性は強く締まりは極めて強く，層厚は 10 ～ 21㎝である。茨城粘土層への漸移層である。

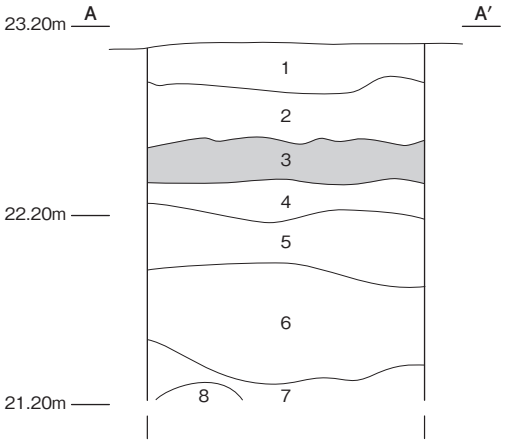
第５層は，褐灰色を呈する粘土層である。橙色の酸化した鉄分を含み，粘性・締まりともに強く，層厚は 20 ～ 38㎝である。茨城粘土層に比定される。

第６層は，青灰色を呈する粘土層である。橙色の酸化した鉄分を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は 36 ～ 64㎝である。第５層に続き茨城粘土層にあたる。

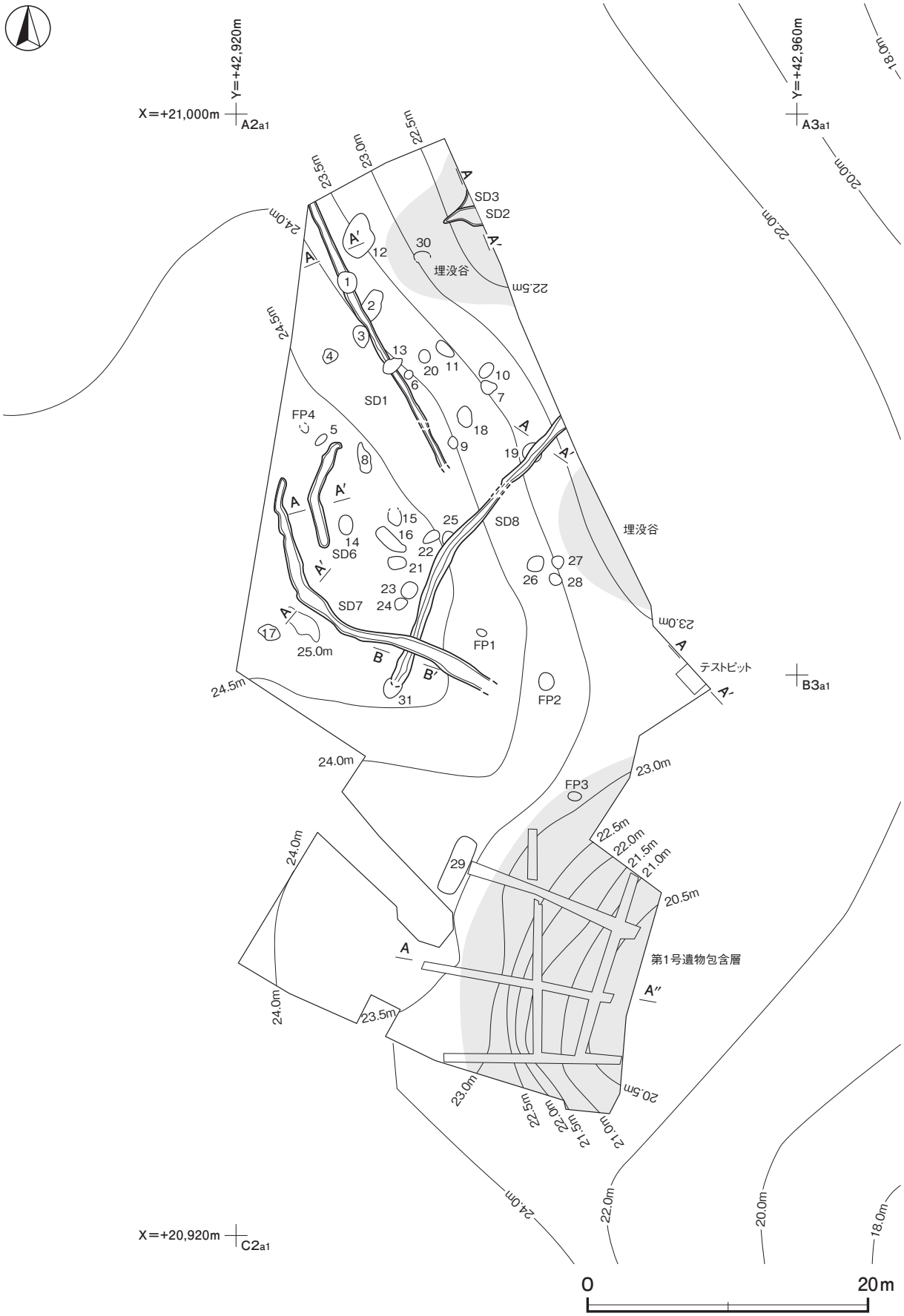
第７層は，粘土粒子と砂質粒子を含む灰オリーブ色の層である。粘性は普通で締まりは強く，層厚は薄いところで６㎝ほどである。砂層への漸移層である。

第８層は，灰白色を呈する砂層である。粘性は弱く，締まりは普通である。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は，第２層上面で確認した。



第３図　基本土層図



第４図　東大橋逆井遺跡遺構全体図

第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，炉跡４基，土坑 20 基，遺物包含層１か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

⑴　炉跡

今回の調査で，当時代と考えられる炉跡４基を確認した。出土遺物の遺存状況などから時期判断の困難なものについては，規模や形状などから当時代に属すると判断し，実測図と土層解説，一覧表を掲載する。

第４号炉跡（第５図　PL ２）

位置　調査区西部のＡ２f2 区，標高 24 ｍの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　北側が撹乱を受け，長径は 0.34 ｍ，短径は 0.39 ｍしか確認できなかった。楕円形と推定でき，長径方向はＮ－ 30゜－Ｗである。火床面は平坦で，火熱を受けて赤変硬化している。深さは９㎝である。

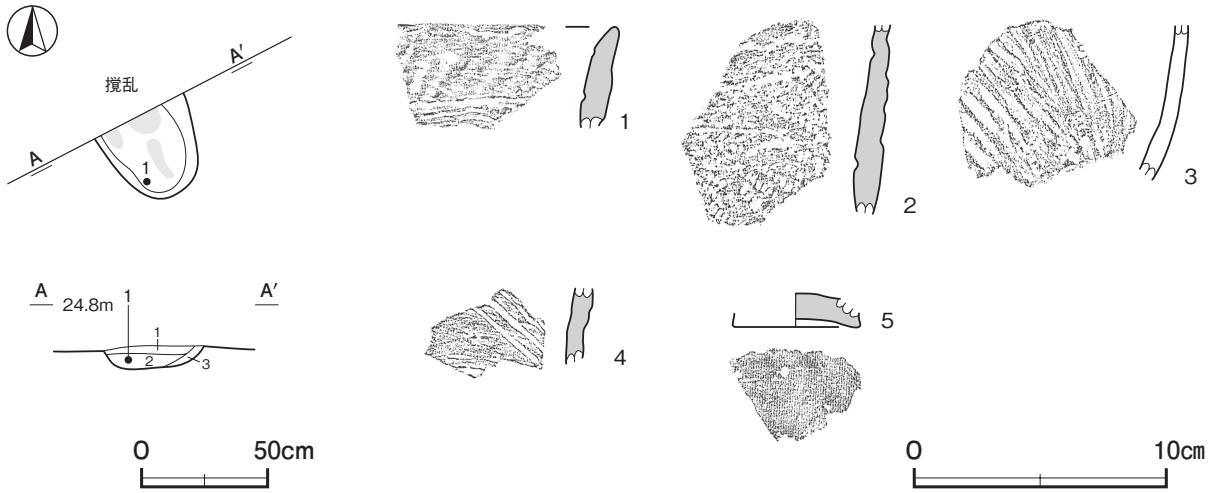
覆土　３層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

１　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
２　暗 赤 褐 色　ロームブロック･焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
３　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 32 点（深鉢），石器１点（磨石）が出土している。１は覆土中層から出土している。３は条痕文系の土器で，混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。

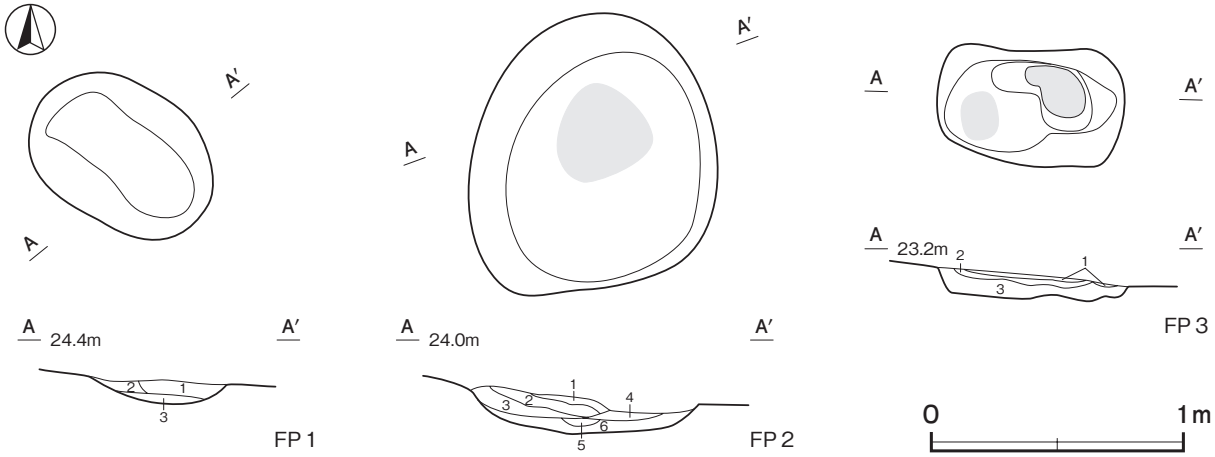


第５図　第４号炉跡・出土遺物実測図

第４号炉跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	長石･石英･雲母･繊維	にぶい黄橙	単節縄文 LR	覆土中層	PL 4
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	単節縄文 RL	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	条痕文	覆土中	PL 4

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	沈線による区画	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	上げ底	覆土中	



第６図　縄文時代炉跡実測図

第１号炉跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

第３号炉跡土層解説
1　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第２号炉跡土層解説
1　にぶい褐色　焼土粒子微量
2　にぶい橙色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　にぶい褐色　ローム粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量

表２　縄文時代炉跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	A2j5	N－51°－W	楕円形	0.78 × 0.56	9	平坦	緩斜	自然		
2	B2a6	N－4°－E	楕円形	1.09 × 0.98	14	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
3	B2c7	N－77°－W	隅丸長方形	0.76 × 0.46	10	平坦	外傾	人為		
4	A2f2	N－30°－W	［楕円形］	(0.34) × 0.39	9	平坦	緩斜	人為	縄文土器	

(2)　土坑

第２号土坑（第７図）

位置　調査区北部のＡ２d3 区，標高 24 mの台地縁辺部に位置している。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

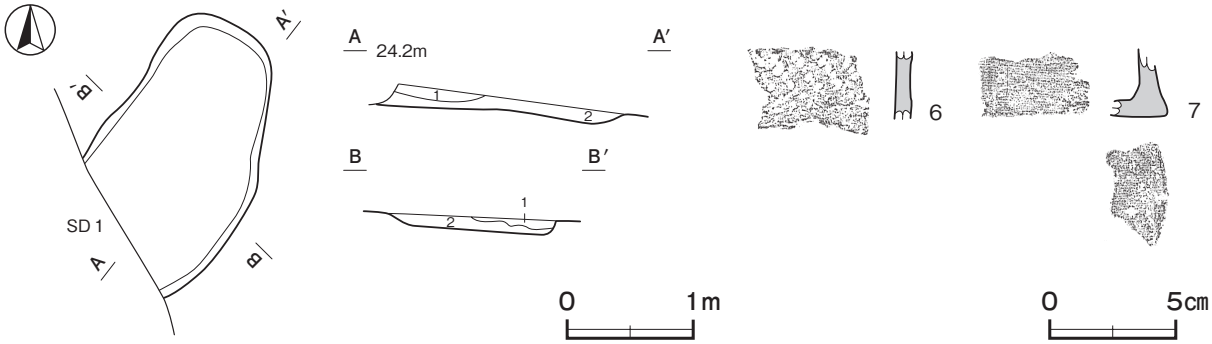
規模と形状　西側が第１号溝に掘り込まれているため，長径は 1.85 m，短径は 1.32 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき，長径方向はＮ－ 32°－ Ｅである。底面は平坦である。深さは 17cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 24 点（深鉢）が，覆土中から出土している。流入土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第７図　第２号土坑・出土遺物実測図

第２号土坑出土遺物観察表（第７図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	単節縄文 RL	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	平底	覆土中	

第５号土坑（第８図）

位置　調査区西部のＡ２f2 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径 0.94m，短径 0.54mの楕円形で，長径方向はＮ－ 39 ˚ －Ｅである。深さは 15㎝で，底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

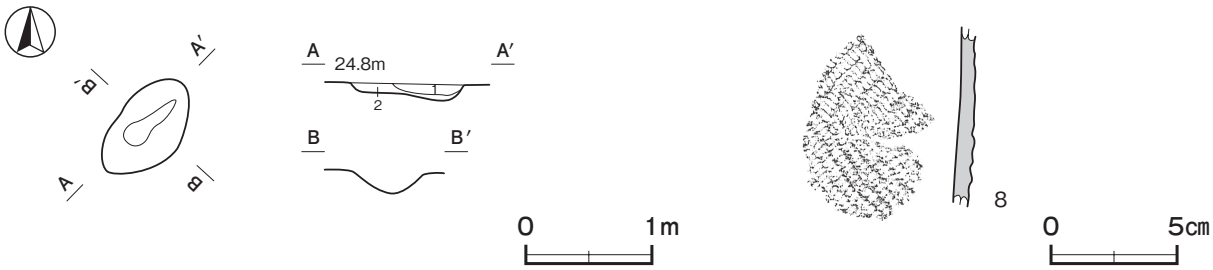
覆土　２層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量　　2　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢）が，覆土中から出土している。流入土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第８図　第５号土坑・出土遺物実測図

第５号土坑出土遺物観察表（第８図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	単節縄文 RL	覆土中	

第 11 号土坑（第９図）

位置　調査区北部のＡ２e4 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径 1.56m，短径 0.82mの楕円形で，長径方向はＮ－ 36゜－ W である。深さは 30㎝で，底面は平坦である。壁は外傾している。

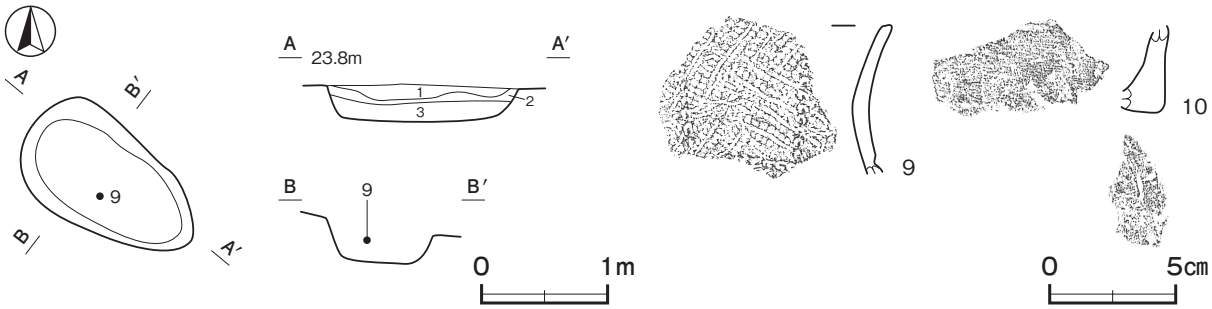
覆土　３層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含む層が堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢）が，覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期後半の諸磯Ａ式期と考えられる。



第９図　第 11 号土坑・出土遺物実測図

第 11 号土坑出土遺物観察表（第９図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
9	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	羽状縄文の施文後に円形竹管文	覆土中層	PL 4
10	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	上げ底ヵ	覆土中	

第 15 号土坑（第 10 図）

位置　調査区中央部のＡ２h3 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　北側が撹乱を受けているため，長径は 1.05 m，短径は 0.98 mしか確認できなかった。楕円形と推定でき，長径方向はＮ－ 9゜－ W である。深さは８㎝で，底面は平坦である。壁は外傾している。

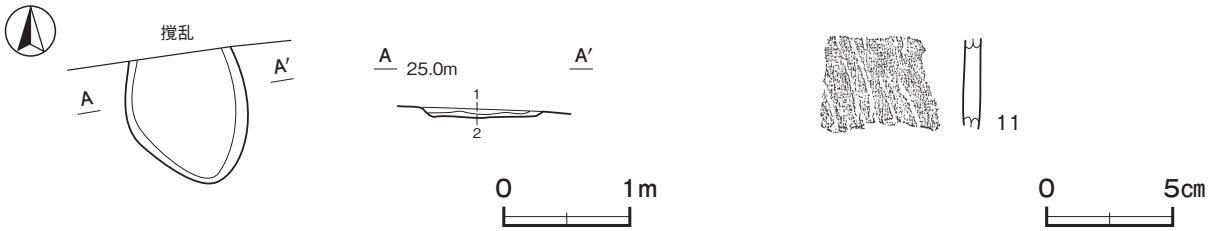
覆土　２層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子を含む層が堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が，覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期後半の浮島１a 式期と考えられる。



第 10 図　第 15 号土坑・出土遺物実測図

第 15 号土坑出土遺物観察表（第 10 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
11	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	撚糸文	覆土中	PL 4

第 21 号土坑（第 11 図　PL 3）

位置　調査区中央部のＡ２h3 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

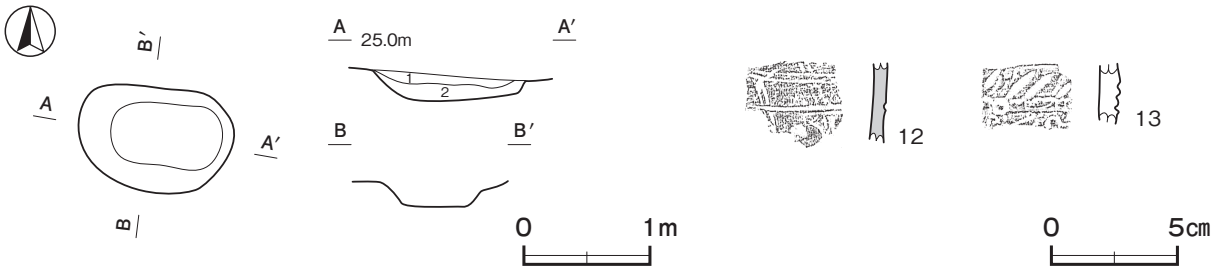
規模と形状　長径 1.25m，短径 0.85mの楕円形で，長径方向はＮ－ 80゜－ W である。深さは 18cmで，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子を含む層が堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量　　2　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片５点（深鉢）が，覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第 11 図　第 21 号土坑・出土遺物実測図

第 21 号土坑出土遺物観察表（第 11 図）

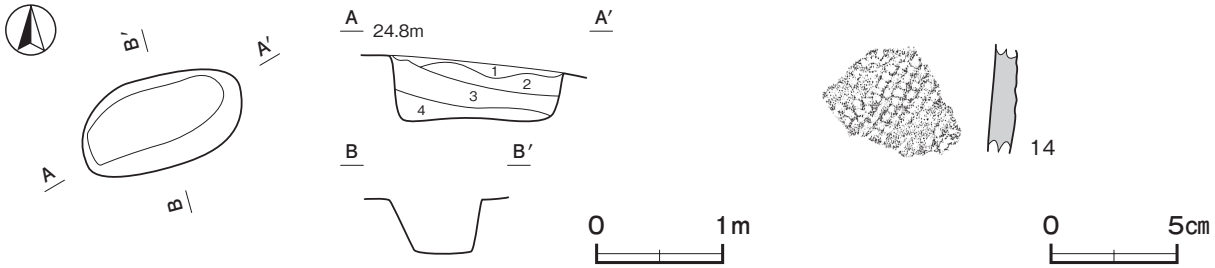
番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
12	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	沈線による区画	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	円形竹管文　半截竹管による結節沈線文	覆土中	

第 22 号土坑（第 12 図）

位置　調査区中央部のＡ２h4 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径 1.36m，短径 0.75mの楕円形で，長径方向はＮ－ 71゜－ E である。深さは 42cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が堆積していることから，埋め戻されている。



第 12 図　第 22 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢）が，覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。

第 22 号土坑出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
14	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	単節縄文 LR	覆土中	PL 4

第 23 号土坑（第 13 図　PL 3）

位置　調査区中央部のＡ２i4 区，標高 24 mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状　長径 1.19m，短径 1.00mの楕円形で，長径方向はＮ－ 30゜－ W である。深さは 40cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

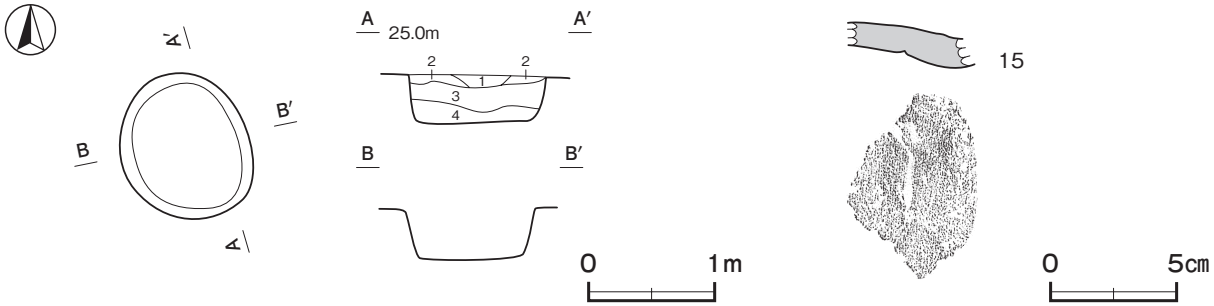
覆土　４層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片 16 点（深鉢）が，覆土中から出土している。埋土に混入したものと考えられる。

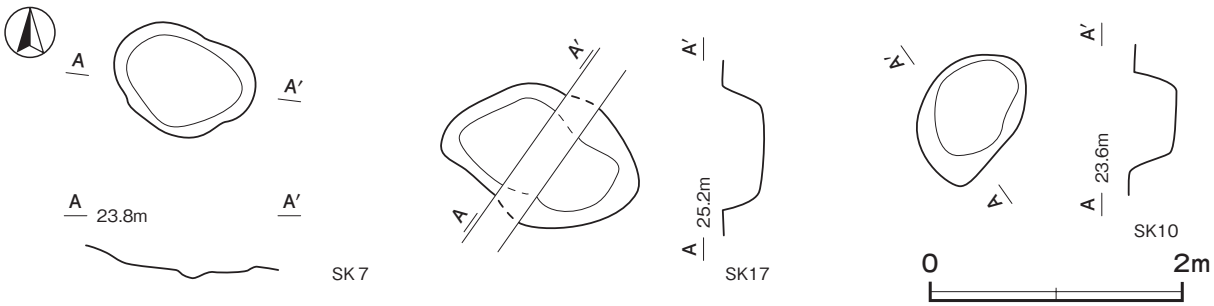
所見　時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



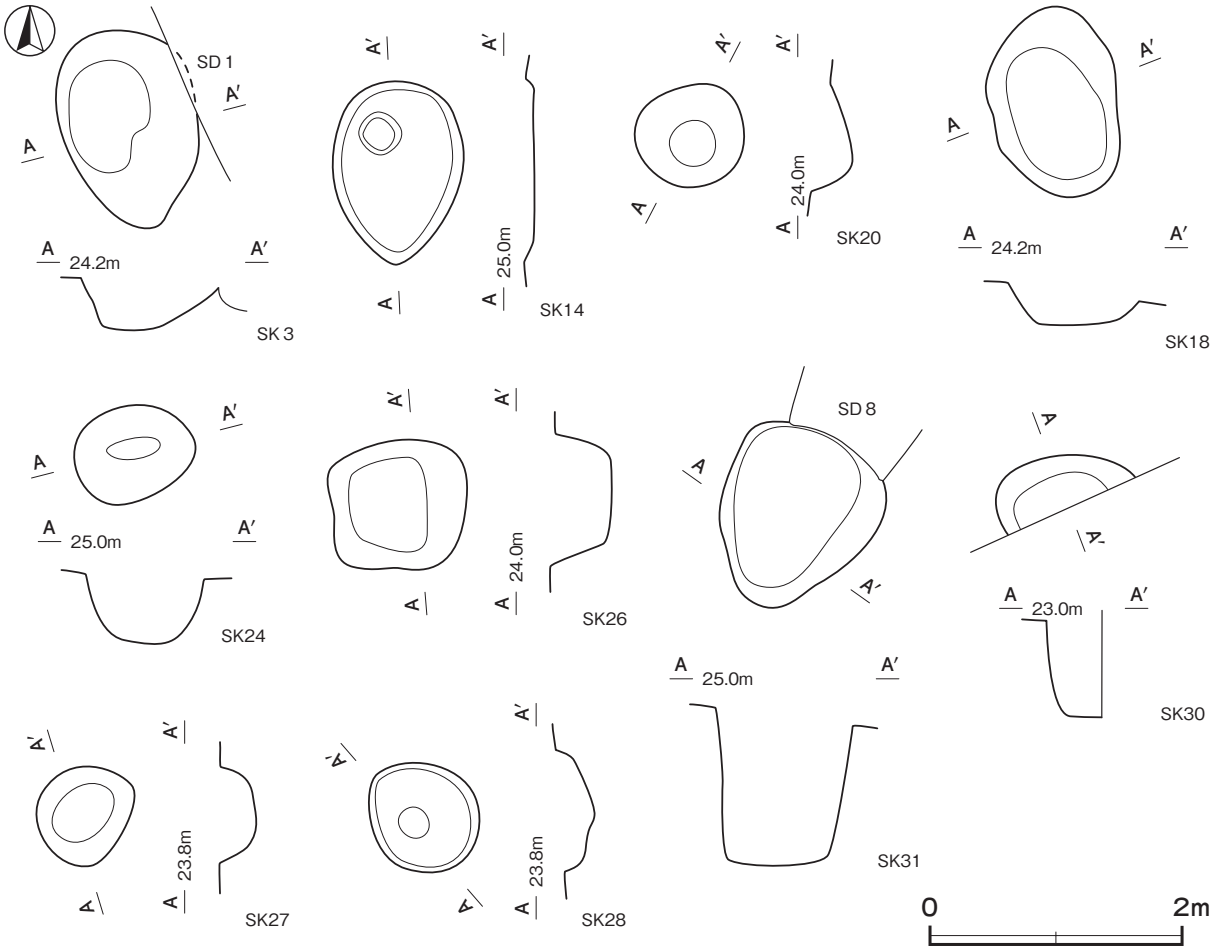
第 13 図　第 23 号土坑・出土遺物実測図

第 23 号土坑出土遺物観察表（第 13 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
15	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	上げ底	覆土中	



第 14 図　縄文時代土坑実測図（１）



第 15 図　縄文時代土坑実測図（2）

表３　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
2	A2d3	N－32°－E	［楕円形］	(1.85)× 1.32	17	平坦	緩斜	自然	縄文土器	本跡→SD 1
3	A2c3	N－16°－W	［楕円形］	1.61 ×(1.09)	46	皿状	外傾･緩斜	自然	縄文土器	本跡→SD 1
5	A2f2	N－39°－E	楕円形	0.94 × 0.54	15	皿状	緩斜	自然	縄文土器	
7	A2e5	N－58°－W	楕円形	1.14 × 0.83	8	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
10	A2e5	N－24°－E	楕円形	1.09 × 0.77	33	平坦	外傾	自然	縄文土器	
11	A2e4	N－36°－E	楕円形	1.56 × 0.82	15	平坦	外傾	人為	縄文土器	
14	A2h2	N－0°	楕円形	1.45 × 1.04	7	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
15	A2h3	N－9°－W	［楕円形］	(1.05)× 0.98	8	平坦	外傾	人為	縄文土器	
17	A2j1	N－54°－W	楕円形	1.44 × 1.10	34	平坦	外傾	人為	縄文土器	
18	A2f5	N－11°－W	楕円形	1.51 × 1.03	30	平坦	外傾	人為	縄文土器	
20	A2e4	－	円形	0.86 × 0.86	30	皿状	外傾	人為	縄文土器	
21	A2h3	N－80°－W	楕円形	1.25 × 0.85	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
22	A2h4	N－71°－E	楕円形	1.36 × 0.75	42	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
23	A2i4	N－30°－W	楕円形	1.19 × 1.00	40	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
24	A2i3	N－75°－E	楕円形	0.97 × 0.76	60	平坦	外傾	自然	縄文土器	
26	A2h6	N－0°	隅丸方形	1.11 × 1.03	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	
27	A2h6	N－36°－E	楕円形	0.80 × 0.71	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	
28	A2i6	N－50°－W	楕円形	0.97 × 0.85	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	
30	A2c4	N－70°－E	［楕円形］	1.08 ×(0.41)	72	平坦	ほぼ直立	－	縄文土器	
31	B2a3	N－24°－E	楕円形	1.44 × 1.26	112	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→SD 8

(3) 遺物包含層

第１号遺物包含層（第４・16図）

位置　調査区南部のＢ２b7～Ｂ２h7区にかけての標高20～23ｍほどの斜面部に位置している。

重複関係　第３号炉跡に掘り込まれている。

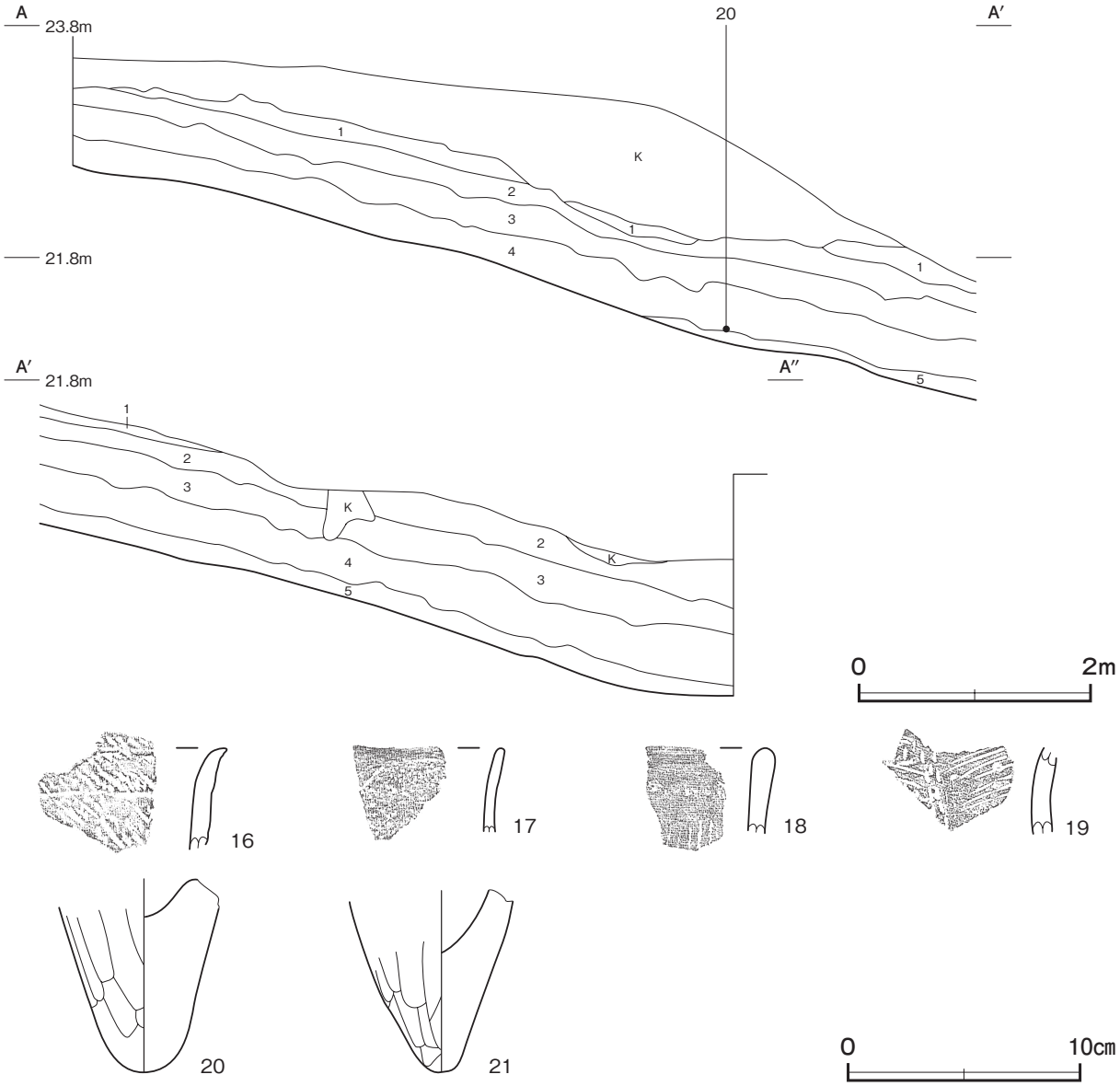
規模　南東部が調査区域外に延びているため，南北幅約25ｍ，東西幅約12ｍのみ確認した。標高差は約３ｍである。

堆積状況　５層に分層できる。斜面上部から堆積した様相を呈する自然堆積で，各層は10～20㎝ほどの厚さである。第３層の土壌をサンプリングし，分析した結果，鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）などの混在が確認された。

土層解説

１	暗褐色	ローム粒子微量	
２	黒色	ローム粒子微量	
３	黒色	ローム粒子中量	
４	黒褐色	ローム粒子微量	
５	極暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	

遺物出土状況　縄文土器片51点（深鉢49，尖底深鉢２）が出土している。土器片は器面・破損面ともに摩耗し，大きさが５㎝以下の細片が多い。遺物は第１層からは出土せず，第２層以下からまばらに出土している。



第16図　第１号遺物包含層・出土遺物実測図

所見　斜面上部に散在していた土器が，土と伴に谷部へ流入したと考えられる。出土している遺物は早期の尖底深鉢や撚糸文系のほか，前期の黒浜式などを含んでいることから，早期から前期にかけて堆積したと考えられる。堆積土壌を分析した結果，K-Ah などは，谷の埋没以前の土壌に含まれていたものが，谷埋積時に流れこんだと推定されている。

第１号遺物包含層出土遺物観察表（第 16 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	単節縄文 RL	覆土中	PL 4
17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	無節縄文 Rヵ	覆土中	PL 4
18	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	縦位の撚糸文	覆土中	PL 4
19	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	刺突による列点　沈線文	覆土中	PL 4
20	縄文土器	尖底深鉢	長石・石英・細礫	にぶい橙	外面ナデ	第４層	PL 4
21	縄文土器	尖底深鉢	長石・石英	橙	外面ナデ	覆土中	PL 4

２　その他の遺構と遺物

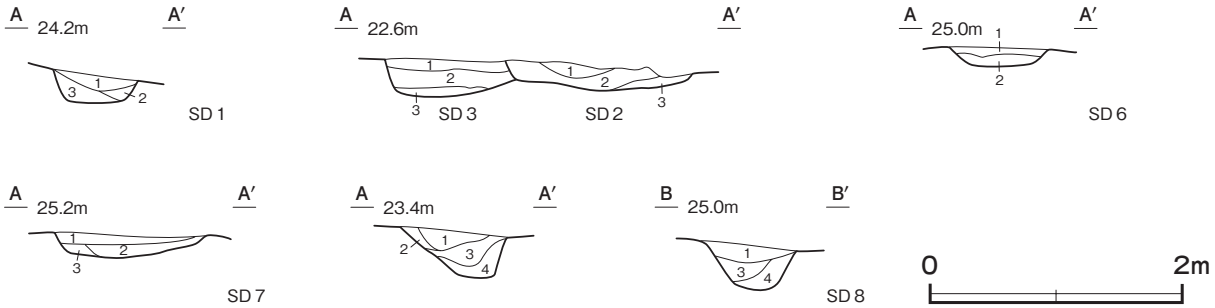
今回の調査で，時期や性格が明確でない土坑 11 基，溝跡６条を確認した。いずれも，実測図，土層解説と遺物等を一覧表で掲載する。

(1)　土坑

表４　その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		底　面	壁　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	A2c2	N－20°－W	楕円形	1.59 × 1.16	18	皿状	緩斜	自然		SD 1→本跡
4	A2e2	N－12°－E	不定形	1.33 × 0.98	25	皿状	緩斜	自然		
6	A2e4	－	円形	0.58 × 0.55	23	平坦	ほぼ直立	自然		
8	A2g3	N－10°－W	不定形	2.25 × 0.52	7	平坦	緩斜	自然		
9	A2f4	N－５°－W	楕円形	1.00 × 0.67	4	凹凸	緩斜	自然		
12	A2c3	N－２°－E	楕円形	3.03 × 2.13	84	平坦	外傾･直立	人為		
13	A2e3	N－53°－E	楕円形	1.60 × 0.94	5	平坦	緩斜	－		SD 1→本跡
16	A2h3	N－49°－W	楕円形	2.56 × 0.93	16	平坦	外傾	自然		
19	A2f6	N－18°－W	楕円形	1.37 × 1.02	42	皿状	緩斜	人為		本跡→SD 8
25	A2h4	N－41°－E	不定形	0.96 ×(0.66)	14	皿状	緩斜	自然		本跡→SD 8
29	B2d4	N－26°－E	隅丸長方形	4.33 × 1.41	19	平坦	外傾･緩斜	人為		

(2)　溝跡（第４・17 図）



第 17 図　その他の溝跡実測図

第１号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第２号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

第３号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第６号溝跡土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

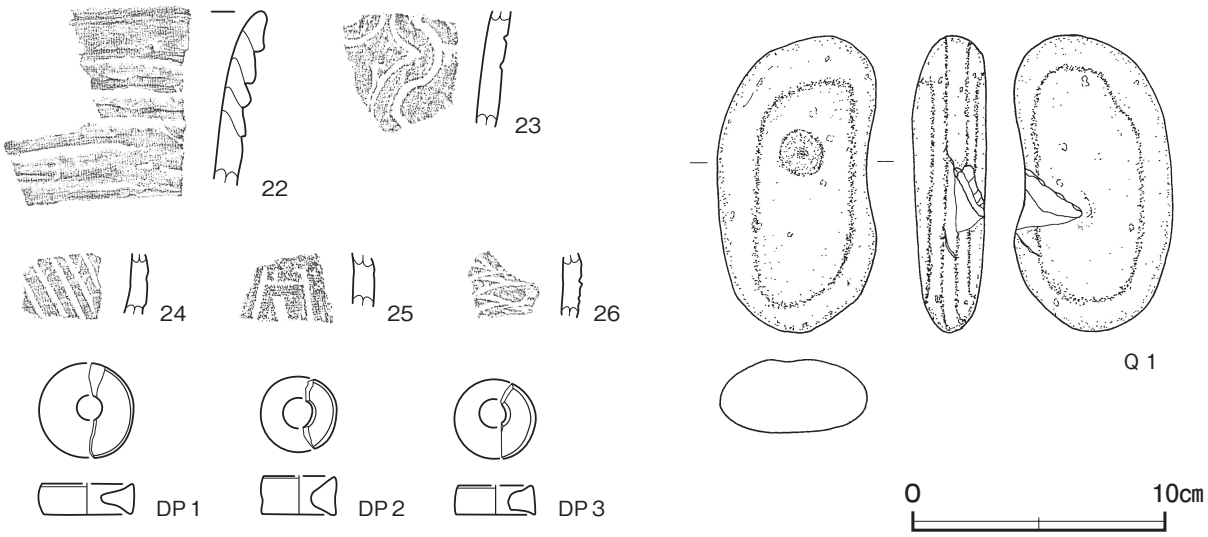
第７号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第８号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量

表５　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	平面形	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
1	A2b2 ～ A2g4	N － 24° － W	直線状	(20.68)	0.36～0.84	0.17～0.52	7 ～ 34	逆台形	外傾	自然	縄文土器	SK ２・３→本跡→SK １・13
2	A2b4 ～ A2b5	N － 66° － E	直線状ヵ	(2.29)	0.15～1.47	0.13～1.38	20	U字状	外傾	人為	縄文土器	SD ３→本跡
3	A2b5	N － 60° － E	直線状ヵ	(1.18)	(0.60～0.98)	(0.20～0.84)	30	U字状	外傾	人為	縄文土器	本跡→SD ２
6	A2f2 ～ A2h2	N － 15° － W N － 24° － E	くの字状	7.95	0.62～0.97	0.40～0.72	6 ～14	浅い U字状	緩斜	自然	縄文土器	
7	A2g1 ～ B2a5	N － 29° － W	L字状	(24.44)	0.34～1.40	0.20～1.14	3 ～18	逆台形	外傾	人為	縄文土器，石器	SD ８→本跡
8	B2a3 ～ A2f6	N － 20° － E N － 30° － E	くの字状	(22.24)	0.50～1.10	0.23～0.50	28 ～ 36	逆台形	外傾	人為	縄文土器，石器，土製品	SK19・25・31→本跡→SD ７

(3)　遺構外出土遺物（第 18 図）



第 18 図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
22	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口縁部に明瞭な輪積痕	SD ８	PL ４
23	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	二重の沈線	SD ８	
24	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	沈線文	表土	

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
25	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	沈線文	表土	PL 4
26	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻条痕文	表土	PL 4

番号	器　種	径	孔径	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
DP 1	耳飾り	[3.8]	[1.0]	1.2	(7.33)	長石・石英	にぶい橙	両面ナデ	SD 8	
DP 2	耳飾り	[3.0]	[1.3]	1.5	(4.97)	長石・石英	明赤褐	両面ナデ	SD 8	
DP 3	耳飾り	[3.2]	[1.3]	1.2	(4.94)	長石・石英	にぶい黄橙	両面ナデ	表土	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 1	敲石	11.7	6.3	2.9	(310.1)	砂岩	片面に敲打痕	表土	

第4節　ま　　と　　め

今回の調査で，縄文時代の炉跡４基，土坑 20 基，遺物包含層１か所のほか，時期不明の土坑や溝跡を確認した。当遺跡は谷津に面した台地の縁辺部に立地し，縄文時代以降の生活痕跡は希薄である。出土した遺物は大半が縄文時代に属するもので，この他には近世のものと思われる陶器の小片がわずかに出土しているのみである。ここでは出土した縄文土器の分類と，量的な比率を示すことでまとめとしたい。

調査によって出土した縄文土器は，破片数が 727 点出土で[1)]，早期の撚糸文系土器や，前期末から中期初頭の土器片が認められる。なお，小片のため判断が難しいが，後期初頭の称名寺式の可能性のある小片が２点出土している。分類できた土器片のうち，出土量が最も多いのは前期前半の黒浜式土器で，約 61％を占める。次いで浮島１a・１b 式土器が約 15％となり，前期前半から後半にかけてのものが大部分であることが明らかとなった。なお，諸磯 A 式土器も少量認められる。この他には，前期末から中期初頭の粟島台式土器（約 10％）と五領ヶ台式土器（約４％），早期の撚糸文系である夏島式・稲荷台式土器，沈線文系である田戸下層式土器，条痕文系である茅山上層式土器などがあり，早期の土器は約９％出土している。

遺物包含層は，層位的な分析までは至らなかったが，尖底深鉢を含む早期の土器が出土しており，表土中などからは撚糸文系の土器が出土している。当遺跡周辺では縄文時代早期前半から小規模な土地利用が行われ，前期前半から後半にかけての時期に活発化する。その後は，前期末から中期初頭にかけて再び小規模な活動の痕跡が伺える。これ以降は後期初頭の可能性がある土器の小片が認められるのみで，近世に至るまで遺物を確認することができない。

いずれの時代でも建物跡等は確認できず，集落を営むには不向きな土地であったと思われ，台地縁辺部における土地利用の一端が明らかとなった。

註

１）表土中など，遺構に伴わない出土状況が多いため，調査区内から出土した土器の破片数をまとめて集計した。器表面の状態が悪く判別できないものも多いため，型式別の出土割合は判別できたものを対象として扱った。

付　　章

東大橋逆井遺跡のテフラ分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城県石岡市大字東大橋に所在する東大橋逆井遺跡は，北東側を園部川，南西側を恋瀬川のそれぞれの河谷により区切られた東茨城台地南部に相当する台地縁辺部から斜面地に位置する。東茨城台地は，下末吉海進により形成された海成面を地形面とする台地である（貝塚ほか編 ,2000）。発掘調査では縄文時代の遺構，遺物が出土しており，縄文時代の集落跡と考えられている。

また，現地調査では縄文時代に比定される遺物包含層が確認されている。遺物包含層の覆土は黒ボク土を主体とするが，黒ボク土中に褐色のテフラ様堆積物が挟在する状況が確認された。本分析調査では，このテフラ様堆積物を対象にテフラの分析を実施し，特に，試料中における鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah: 町田・新井 ,1978）の含有状況を確認することで，遺物包含層の年代についての資料を作成する。

1．試料

試料は縄文時代に比定されている遺物包含層覆土の中部に確認されるテフラ様堆積物 1 点である。サンプル C ②という試料名が付されている。本試料を対象として，テフラの検出同定および火山ガラスの屈折率測定を実施する。

2．分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り，水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し，上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後，実体顕微鏡下および偏光顕微鏡下にて観察する。観察は，テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし，その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは，その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は，バブル型は薄手平板状，中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり，軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては，その屈折率を測定することにより，テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は，古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3．結果

処理後の砂分中には微量の火山ガラスが認められた。火山ガラスは, 無色透明のバブル型と無色透明の中間型および軽石型，淡褐色を帯びたバブル型の各形態が混在する。スコリアおよび軽石は全く認められなかった。

火山ガラスの屈折率を図 1 に示す。n1.497-1.516 という非常に広いレンジを呈するが，ヒストグラムは複数のテフラに由来する火山ガラスが混在している状況を示している。その中で比較的多くみられる値は，n1.501-1.502 である。

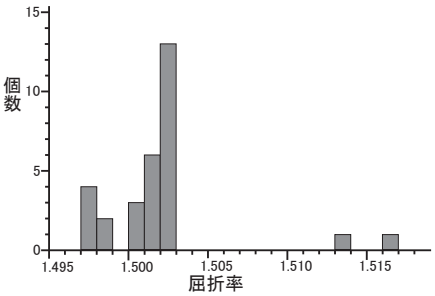


図 1. 火山ガラス屈折率

4．考察

観察された火山ガラスの形態や色調と，測定された屈折率のヒストグラムの状況，さらには東大橋逆井遺跡の地理的位置と，これまでのテフラの分布状況（例えば町田・新井（2003）など）から，検出された火山ガラスは，姶良 Tn 火山灰（AT: 町田・新井 ,1976）と，立川ローム層上部ガラス質火山灰（UG: 山崎 ,1978），および鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah: 町田・新井 ,1978）の 3 種類のテフラに由来するものが混在している可能性が高い。検出された火山ガラスのうち，無色透明のバブル型の多くは AT に由来すると考えられ，また屈折率では n1.497-1.500 付近の比較的低屈折率の火山ガラスが AT に由来すると考えられる。一方，無色透明の中間型および軽石型の多くは UG に由来すると考えられ，屈折率では n1.500-1.502 のレンジを示す火山ガラスの多くが UG に由来すると考えられる。そして極めて微量認められた淡褐色を帯びたバブル型火山ガラスと n1.515 前後の高屈折率の火山ガラスは K-Ah に由来すると考えられる。

AT の噴出年代は，福井県の水月湖のボーリングコアの年縞堆積物の研究により，その暦年代が 3 万年前頃であることが定まったとされている（工藤 ,2013）。遺跡の位置する東茨城台地では台地表層の黒ボク土の下位に形成された立川ローム層の中部に降灰層準がある。UG の噴出年代は，その由来するテフラとされている浅間火山の軽石流期のテフラの噴出年代が暦年で 1.5 ～ 1.65 万年前とされている（町田・新井，2003）ことから，これがその年代となる。東茨城台地でもおそらく立川ローム層の最上部に降灰層準があると考えられる。そして，いずれのテフラも，それを構成する細粒の火山ガラスは，土壌形成過程における撹乱と再堆積により黒ボク土層中にも含まれていることがこれまでの分析事例により確かめられている。したがって，今回の試料から検出された AT や UG の火山ガラスは，谷内に流れ込んだ黒ボク土中にもともと含まれていた可能性が高い。

K-Ah の噴出年代は，暦年代で 7,300 年前とされている（町田・新井 ,2003）が，関東地方の台地上に形成された黒ボク土層における降灰層準は明瞭に捉えられないことが多い。これまでの分析事例では，黒ボク土層の概ね中部から下部にかけての層位から火山ガラスが検出されることが多い。今回の試料における K-Ah の産状は，AT や UG などとの混在からみて，すでに黒ボク土中に含まれていたものが，谷の埋積時に流れ込んだものと考えられる。すなわち，谷の埋積は K-Ah の降灰以降ある程度の時間が経過した後に生じたことが推定される。

引用文献

貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編 ,2000, 日本の地形 4　関東・伊豆小笠原 . 東京大学出版会 ,349p.

工藤雄一郎 ,2013, 最寒冷期っていつごろ？－その年代と環境，そしてヒトの動き－. 日本植生史学会第 28 回大会講演要旨集 , 日本植生史学会 ,3－8.

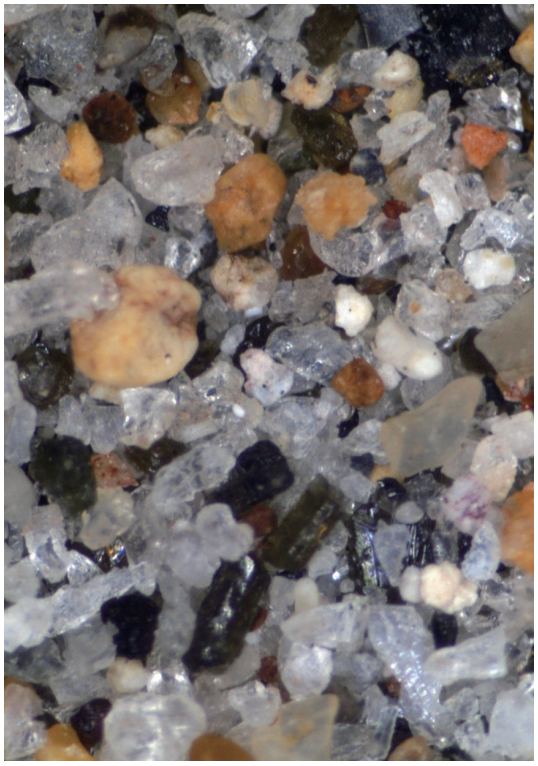
町田　洋・新井房夫 ,1976, 広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－ . 科学 ,46,339-347.

町田　洋・新井房夫 ,1978, 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰 . 第四紀研究, 17,143-163.

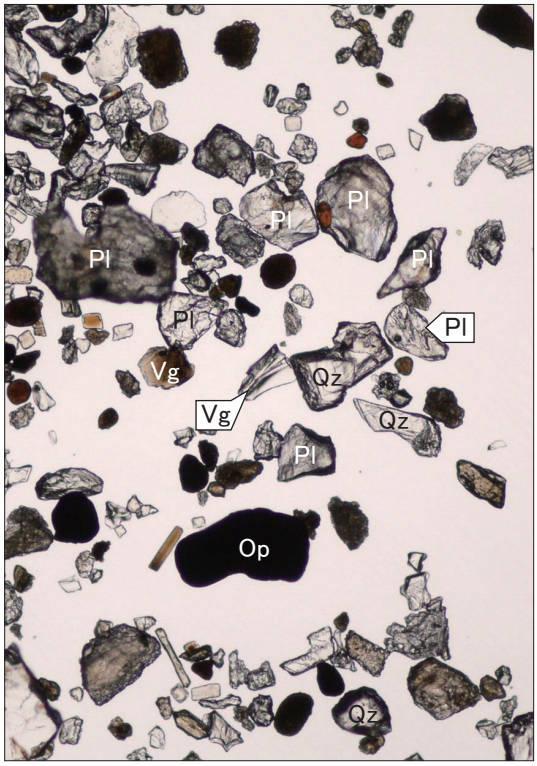
町田　洋・新井房夫 ,2003, 新編　火山灰アトラス . 東京大学出版会 ,336p.

山崎晴雄 ,1978, 立川断層とその第四紀後期の運動 . 第四紀研究 ,16,231-246.

図版1　砂分・火山ガラス



1.砂分の状況(サンプルC　②)



2.火山ガラス(サンプルC　②)

Op:不透明鉱物. Vg:火山ガラス. Qz:石英. Pl:斜長石.
1.は実体顕微鏡下, 2.は偏光顕微鏡下(下方ポーラーのみ)

0.5mm　0.5mm
1　2

写　真　図　版

遺跡全景（北部）

遺跡全景（南部）

PL2

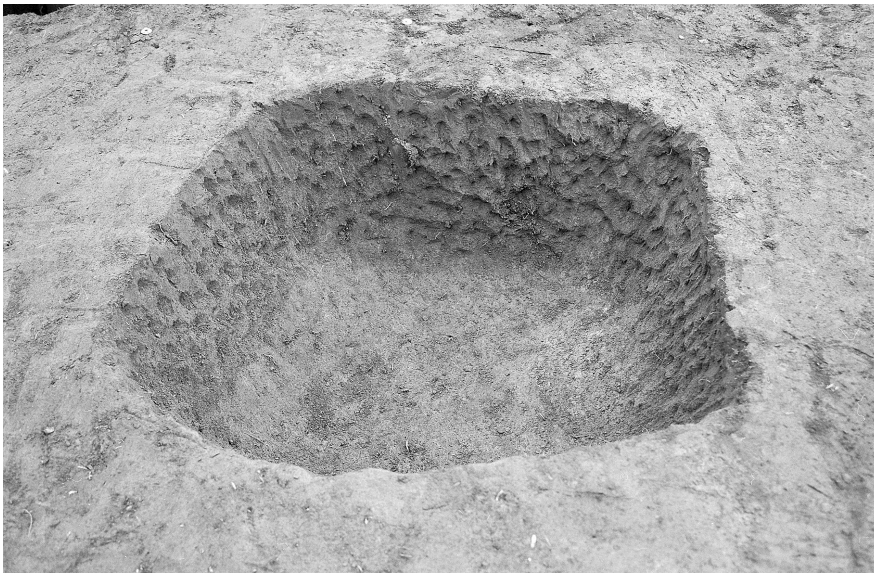
第２号炉跡
確認状況

第３号炉跡
確認状況

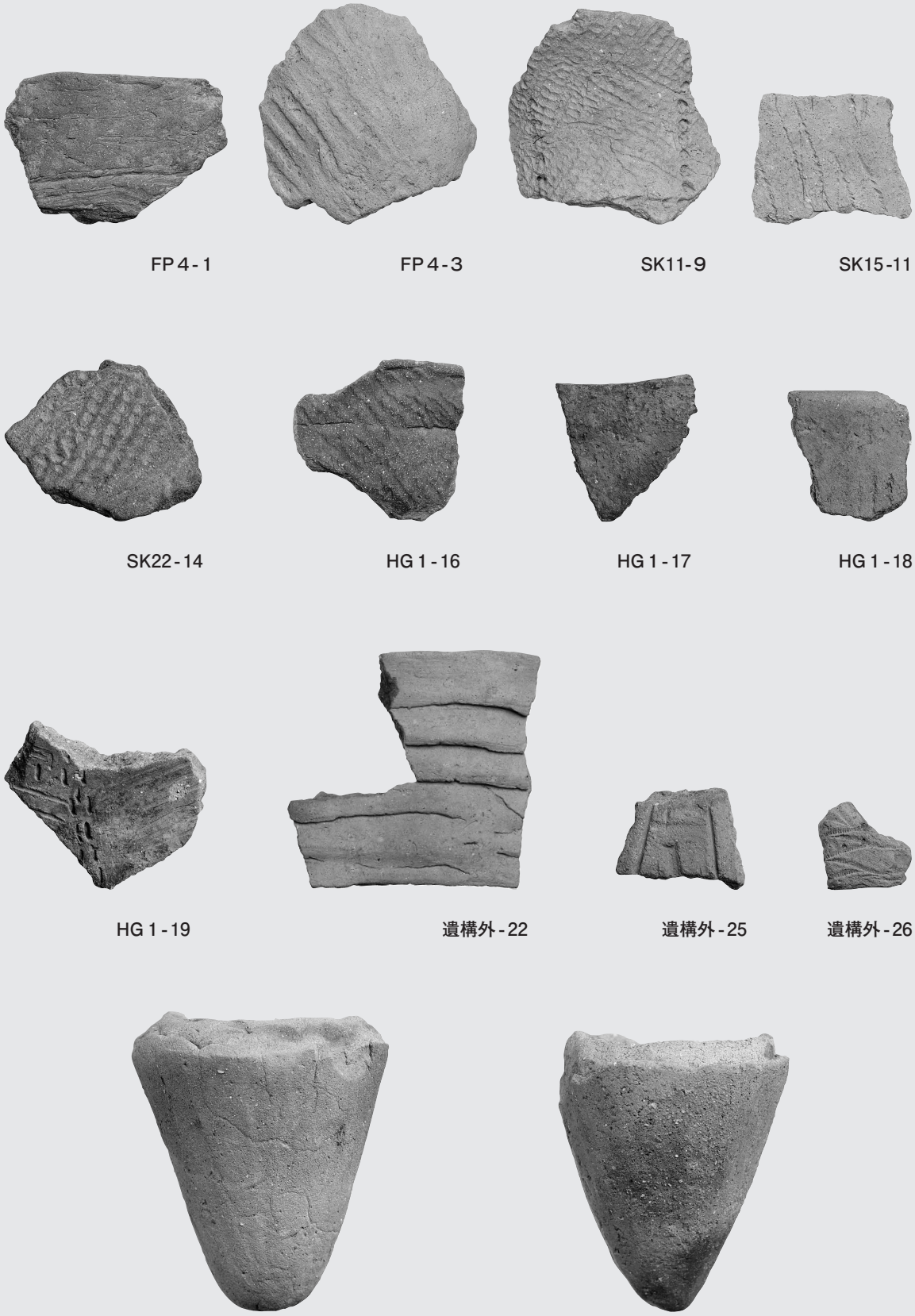
第４号炉跡
遺物出土状況

第16・21号 土 坑

第 23 号　土　坑



第 26 号　土　坑



第４号炉跡，第11・15・22号土坑，第１号遺物包含層，遺構外出土遺物

抄　　録

ふりがな	ひがしおおはしさかいいせき
書　　名	東大橋逆井遺跡
副　書　名	一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書９
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 425 集
著　者　名	皆川貴之
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団
所　在　地	〒 310 － 0911　茨城県水戸市見和１丁目 356 番地の２　　ＴＥＬ 029 － 225 － 6587
発　行　日	2018（平成 30）年３月 16 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
東大橋逆井遺跡	茨城県石岡市大字東大橋字逆井 2,848 の９番地ほか	08205－251	36 度 11 分 18 秒	140 度 18 分 36 秒	22～24 m	20150729～20151008	1,683 ㎡	一般国道６号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東大橋逆井遺跡	包蔵地	縄文	炉跡　4 基 土坑　20 基 遺物包含層　1 か所	縄文土器（深鉢・尖底深鉢），土製品（耳飾り），石器（敲石・凹石）	
	その他	時期不明	土坑　11 基 溝跡　6 条	縄文土器（深鉢），陶器（鉢）	

要　　約	出土した縄文土器は，前期前半の黒浜式が中心である。ほかに，早期の撚糸文系，沈線文系，条痕文系や，中期初頭の五領ヶ台式土器などを少量確認し，早期から中期初頭まで断続的に土地利用が行われたことが明らかになった。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows ７
		Profession Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	６×７film　EPSON GT-X980
		図面類　RICOH imagioMPW4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・Ｌ，太ゴB101Pro
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第425集

東大橋逆井遺跡

一般国道６号千代田石岡バイパス
（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成30（2018）年　3月15日　印刷
平成30（2018）年　3月16日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　冨士オフセット印刷株式会社
〒310－0067　水戸市根本３丁目1534－２
TEL　029－231－4241